

東洋インキ SC ホールディングス株式会社

<https://schr.d.toyoinkgrou.p.com>



《将来に向けた取組方針》

東洋インキグループは長期経営ビジョン「SIC27」に対応した中長期環境目標における①モノづくりでの環境負荷低減、②持続可能な社会を実現させる製品・サービスの提供、③自然・地域との共生を推進の3つの方向性で環境課題に取り組んでいる。方向性③において生物多様性推進を取り組み方針とし、2030年を目標年とした「環境保全活動の継続と推進」を掲げ、短期定性目標には「植樹などによる森林保全と地域の河川・湖などの環境保全の推進」を設定している。この中長期環境目標では、CO₂・化学物質・廃棄物の排出量削減や環境調和型製品の売上高比率の向上などの定量目標も設定している。特にCO₂排出量削減については、2030年で35%削減（2020年度比）、2050年度においてカーボンニュートラルを目指すとしている。

東洋インキグループは、生物多様性の重要性を早くから認識し、社員の行動規範である「東洋インキグループ ビジネス行動基準」の中に“生物多様性の保全を含めた自然保護活動に取り組むこと”を明記するとともに、地域での植林活動や稚魚の放流、河川の清掃などの活動を自主的に進めてきました。

2009年5月、これまでの考え方や活動を整理・統合し、「東洋インキグループ 生物多様性に関する基本方針」を制定しました。



<https://schr.d.toyoinkgrou.p.com/ja/csr/policies/biodiversity.html>

《活動事例》 社有林における生態系調査

トーヨーケム(株)川越製造所の敷地に隣接した社有林には、CO₂吸収源としての役割のほかに、生物多様性の保全といった目的もあります。2016～2017年に行った生態系調査では、さまざまな植物、鳥類、哺乳類が認められました。今後も生態系の保全に努め、生産活動が周辺の生態系に影響を及ぼさないことを確認していきます。

他の拠点所在地域（国内・海外）においても、植林や河川・湖沼・運河の清掃活動など、地域の実情に合わせた環境保全活動を進めることで、生物多様性保全への貢献に取り組んでいきます。



鳥類調査



シュンラン（埼玉県では準絶滅危惧種）

川越社有林の生態系調査で確認された主な生物種

植物	クヌギ、コナラ、イヌシデ、エノキ、ヤマザクラ、アオハダ、エゴノキ、ヒサカキ、ヤマウルシ、ヤマコウバシ、マンリョウ、シュンラン* ¹ 、ツクサなど169種
鳥類	キジバト、コゲラ、アオサギ* ² 、シジュウカラ、ヒヨドリ、メジロ、ムクドリ、シロハラ、シメ、ツグミ、ハクセキレイ、アオゲラ* ² 、エナガ、ホオジロ* ² などの24種
哺乳類	ホンダタヌキ、ハクビシン、アライグマの3種

※1 「埼玉県レッドデータブック2011 植物編」（埼玉県）における選定種

※2 「埼玉県レッドデータブック2008 動物編」（埼玉県）における選定種